

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第五號

第六卷

大正七年五月一日發行

論說

生產政策力分配政策力……………法學博士 河上肇

所得稅ニ於ケル所得ノ統一課稅(二)……………法學博士 神戸正雄

德川時代ニ於ケル封建的都市ノ發達……………法學博士 瀧本誠一

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(五)……………法學博士 田島錦治

諾威ノ海運(一)……………法學士 小島昌太郎

露國ニ於ケルまゝるくす說ノ發達(二)…………… 米田庄太郎

我國^{ニ於ケル}營利心ノ起源及發達(四、完)……………文學士 銅直勇

時事問題

日用品市場ニ就テ……………法學博士 戸田海市

雜錄

南露ニ於ケル獨逸住民(二)……………文學士 長壽吉

續獨逸經濟學界近況(三、完)…………… 米田庄太郎

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(二、完)……………法學士 櫛田民藏

帝國統一後ノ獨逸ノ植民の活動(二、完)…………… 山本美越乃

米國ノ戰時租稅法(三、完)……………在米 阿部賢一

帝國統一後ノ獨逸ノ植民
的活動 (二、完)

山本美越乃

以上要述セルガ如ク、獨逸ハ植民的活動ヲ開
始セシヨリ以來僅々四箇年ニ充タザル短日月間

ニ、能ク植民帝國タル地位ヲ獲得シテ先進植民國ノ班ニ列スルコトヲ得タリ、然レドモ獨逸ノ植民地ハ氣候・風土其他諸種ノ關係上、豫期ノ如クニ移住者ヲ吸收スルコト能ハザル事情アリシヨリ、移住植民地トシテヨリハ寧ロ放資植民地若クバ採收植民地トシテ之ヲ利用セザル可カラザル必要アリキ、而シテ當初ハ軍事的の占領ニ依リテ植民地ニ扶植セラレタル文化的の事業モ、今ヤ獨逸植民協會(Deutsche Kolonialgesellschaft)ノ力ニ依リテ次第ニ善果ヲ結ブニ至レリ、同會ハ一八八六年ニ開カレタル第一回獨逸植民會議ノ決議ニ基キ、翌一八八七年十一月前獨逸植民會社(Gesellschaft für deutsche Kolonisation)ト獨逸植民同盟會(Deutsche Kolonialverein)トノ合併ニ依リテ成レルモノニシテ、ほーへんろーへ、らんげんぶるぐ侯ヲ會長トシ(一八九五年以後ハめくれんぶるひノよはん、あるぶれひと公之ニ代ル)、かゝる、べてるすヲ副會長トシテ、植民事業ニ關スル前進運動ニ益々舉國一致ノ實ヲ舉ゲンコトヲ期シタリ。

合併後昔年ナラズシテ獨逸植民協會ノ會員數ハ一萬六千人以上ニ達シ、最近即チ一九一四年ニハ其ノ數四萬ヲ超ヘ、五箇ノ地方同盟團體及三百五十ノ支部ヲ包括シ、然カモ其ノ中九ハ外國(あんどわーぶ・巴里・倫敦はれるも・市俄古・東京・あびあ・ばたびあ・ばがも上等)ニ之ヲ設置セリ、各支部ハ廣大ナル自治權ヲ與ヘラレ且其ノ特有ノ組織ヲ有ス、該協會ノ目的トシテ綱領中ニ示サル所ノモノハ凡ソ左ノ如シ。

- (一) 獨逸ノ植民事業ヲ進捗セシメンガ爲メニ國民ノ活力ヲ結合セシメ、且必要ナル専門的ノ知識ノ普及ヲ計ルコト、
- (二) 時々刻々起リ來ルベキ一切ノ植民問題ニ關シテ實際的ノ解決ヲ求ムルコト、
- (三) 獨逸ノ植民事業ニ便益ヲ與ヘ且其ノ發達ニ注意スルコト、
- (四) 獨逸ノ移民問題ニ關スル實際上ノ解決ヲ研究スルコト、
- (五) 海外ニ於ケル獨逸國民ト母國民トヲ連結スベキ經濟上及道義上ノ連鎖ヲ維持シ且之

(1) 本誌前號ニハ『獨逸植民協會』トナシタルモ合併後ノ獨逸植民協會ト混同スルノ虞レアルヲ以テ特ニ斯ク改ム

ヲ鞏固ナラシムベキコト、

(六) 一切ノ植民事業及植民の活動ヲ同一ニ保護スルコト、

以上ノ目的中移民問題ニ關スル實際的ノ解決ヲ除ク外ハ、植民協會ハ其ノ有力ナル機關タル定期刊行物(Deutsche Kolonialzeitung; Mitteilungs der deutsche Kolonialgesellschaft; Beiträge zur Kolonialpolitik und Kolonialwirtschaft; Zeitschrift für Kolonialpolitik, Kolonialrecht und Kolonialwirtschaft.)ニ依リテ斷エズ目的ノ貫徹ニ努メ、又實際其ノ效果ヲ擧グルコトヲ得タリ、例ヘバ植民事業ノ保護獎勵・新設植民會社ノ援助・各種ノ探險事業ノ計畫・植民問題ニ關スル出版物ノ刊行・植民地銀行及土民學校ノ設立・交通機關ノ設備・移民通報局ノ設置・土語研究ノ獎勵・はむぶるぐニ於ケル植民地植物園・づゐるへるむずゐるふニ於ケル植民地農學校・伯林ニ於ケル植民地博物館等ニ對スル後援ノ如キハ其ノ主ナルモノニシテ、又該協會ノ附屬圖書室ハ植民地ニ關スル數萬ノ藏書ヲ有シ、巡廻閱覽制度ニ依リ

テ汎ク知識ノ普及ヲ計リツツアリ。

獨逸植民事業ノ最モ有力ナル保護者トシテハ、上述ノ如ク獨逸植民協會ヲ以テ第一位ニ推サザルベカラズト雖ドモ、此ノ他尙ホ直接間接ニ植民事業ニ後援ヲ與ヘンガ爲メニ各種ノ團體組織セラレタリ、就中、植民地ニ於ケル病者ノ看護ヲ目的トスル植民地看護婦會(Frauenverein für Krankenpflege in Kolonien)植民地產物及之ガ加工品ニ對スル嗜好ヲ喚起シ、母國對植民地間ノ經濟的關係ヲ益々密接鞏固ナラシメンコトヲ主タル目的トスル植民地經濟委員會(Kolonialwirtschaftliche Komitee)、海外移住者ノ土民ノ女子ト結婚スルコトニ因リテ劣種ノ子女ヲ擧グルヲ豫防スル目的ヲ以テ、植民地ニ母國ノ女子ヲ送ランコトヲ其ノ任務トナス獨逸婦人植民團(Deutschkolonialer Frauenbund)等ハ最モ著名ニシテ、又植民地ノ事情ニ通ゼシメ農業・造林・牧畜・園藝等ノ經營ニ遺憾ナキ準備教育ヲ施サントスル目的ヲ以テ、一八九四年らいん新教亞弗利加教會ニ依リテ創設セラレタルういつ

ゑんはうせん植民學校ノ如キ、植民地官吏ノ養成・技術家・農業者・商業家・其ノ他植民地ノ事業ニ從事セントスル者ニ必要ナル教育ヲ授クル目的ヲ以テ、一九〇八年市費ヲ以テ設立セラレタル漢堡植民學院ノ如キ、英國ノ例ニ倣ヒテ植民地ニ關スル知識ノ普及ヲ計ランガ爲メニ、一八九六年以後屢々開催セラレタル植民博覽會ノ如キハ、共ニ獨逸國民ノ植民の發展ニ新タナル刺激ヲ與ヘタルコトハ之ヲ疑フ可カラズ。

此ノ如クシテ獨逸ハ他國ノ多年ノ經驗ニ加フルニ自己ノ考案及努力ヲ以テシ、僅々四半世紀ノ間ニ能ク英・佛等ノ先進植民國ト相對立シ得ベキ一大發展ヲ遂グルコトヲ得タリ、否、審ニ彼等ト對立シ得ルノミナラズ、亞弗利加及亞細亞方面ニ於テハ寧ロ彼等ノ恐ル可キ強敵ヲ以テ目セラルルニ至リシガ、更ニ純然タル個人の若クハ團體的ノ植民事業ノ進捗ト共ニ、政府自ラモ亦獨逸ノ通商及海外ニ於ケル自國民ノ保護ヲ名トシテ一大艦隊ノ編成ヲ計畫シタルコトハ、益々彼等ノ恐怖ト反感ノ念ヲ強カラシムルニ至

レリ、而シテ獨逸帝國議會ヲシテ斯カル一大艦隊ノ編成ニ必要ナル豫算ニ協賛ヲ與ヘシメンガ爲メニ、極力盡瘁シタルモノモ亦實ニ獨逸植民協會タリシナリ。

獨逸ノ植民の活動ノ到ル處ニ於テ成功ノ兆アルヤ、假令公然之ヲ妨グベキ正當ノ理由ヲ有セザリシト雖ドモ、英國ハ屢々反對的ノ態度ヲ執リ、例ヘバ一八八二年リヂーでりつつノ西南亞弗利加ニ於テ植民事業ヲ開始セントスルヤ、先ヅ本國政府ニ對シテ其ノ保護ヲ受ケ得ベキヤ否ヤヲ確カメタルヲ以テ、獨逸政府ハ英國植民省ニ對シ是等ノ地方ニ於ケル英國ノ主權ノ有無ニ關シテ確答ヲ求メタルモ、英國政府ハ何等ノ回答ヲ與ヘザリシガ故ニ、其ノ主權ヲ主張スルノ意志ナキモノト認メ、リヂーでりつつニ保護ヲ與フベキコトヲ言明シタルニ、其ノ後英國政府ハ自國ノ主權ハうなるふいつしゆ灣及あんぐら、べけんや灣ノ如キ一定ノ地域ニノミ宣言セラルルモ、若シ葡領西部亞弗利加及けいぶ、ころに一問ノ地帯(現今ノ獨領西南亞弗利加ニ相當ス)

ニ主權ヲ行使スルガ如キ國アラバ、ソハ英國ノ正當ナル權利ヲ侵害スルモノト看做スベキコトヲ主張シ、以テ西南亞弗利加ニ於ケル獨逸ノ活躍ニ反對セントシタルモ、終ニ其ノ目的ヲ達スルニ至ラザリシガ如キ、又かめるんニ於テハ既ニ久シキ以前ヨリはんざ同盟地方ノ商人此處ニ移住シテ本國政府ノ保護ヲ求メシガ、一八八二年英・佛兩國ハ西部亞弗利加ニ於ケル占領地ノ境界ヲ劃定スルト共ニ、互ニ特惠條約ヲ締結セシヨリ以來獨逸ノ利益ハ著シク害セラレ、其ノ後英國政府ハ該地方ニ於ケル獨逸ノ植民の活動ニ對シテ直接抗議ヲ提出シタルモ、びすまろクノ拒絕スル所トナリタルガ如キ、更ニ東亞弗利加ニ於テハ英國ハざんじばるノさるたんヲ助ケテ該地方ニ於ケル獨逸ノ勢力ヲ驅逐セントシタルガ爲メニ、一時兩國々交ノ危機ヲサヘ傳ヘラレタルコトアリ、又一八八五年ニハるべると、ふれいげる(Robert Flegel)ハ、びにのゑ(Benue)河岸及あだまわ(Adamawa)地方(共ニ中部亞弗利加)ニ商業根據地ヲ設定シテ、終ニハチャー

ズ(Chad)湖邊ニ迄之ヲ擴張セントスル計畫ヲ立ラシモ、當時最モ有力ナル英國植民會社ノ一タリシ國民亞弗利加會社(National African Company)ハ之ニ反對シ、中部亞弗利加地方ニ於ケル探險者ノ先驅タル名譽ヲふれいげるニ歸セシムルコトヲ許サザリシガ如キハ、就レモ獨逸ノ植民の活動ニ對スル英國ノ反對的ノ態度ヲ窺フノ一例トシテ之ヲ示スヲ得ベシ。

然レドモ獨逸國民ノ勇敢ニシテ大膽ナル活躍ハ、政府當局ノ巧妙ナル外交的ノ手腕ト相俟チテ、是等ノ有力ナル反對アリシニ拘ラズ着々其ノ目的ヲ達スルコトヲ得タリ、殊ニ當テ植民事業ニ對シテハ好意ヲ有セザリシびすまろクノ、今ヤ皇帝及國民ノ舉ツテ該事業ヲ援助セントスルノ風アリシヨリ、之ガ爲メニ必要ナル資金ヲ得ル上ニ於テモ、亦其ノ事業ヲ直接保護スル上ニ於テモ、斷乎タル方針ニ出ヅルコトヲ得タルハ、植民事業ノ成功ヲシテ一層速カナラシメタル所以ナリトス。

然ルニ獨逸ノ海外發展ノ企畫ハ今ヤ暗黒大陸

及太平洋上ノ一部ニノミ限ラレズシテ、皇帝
 があるへるむ二世ノ大望タル新世界政策ノ實行
 ニ向ヒテ更ニ其ノ歩ヲ進ムルニ至レリ、即チ有
 名ナルばぐだつど鐵道ノ布設ニ獨逸ノ參加シタ
 ルコトハ、將來土耳其ノ分割ニ際シテ絶對的優
 越權ヲ掌握セントスル準備行爲ト看做スヲ得ベ
 ク、(ばぐだつど鐵道ハ土・獨佛・白・英等ノ諸國
 ノ勢力ノ下ニ在ルモ、獨逸ノ勢力ハ最モ大ニシ
 テ全鐵道ノ三割七分即チ一千三百二十餘哩ニ及
 ビ、土耳其ハ三割一分即チ一千百十餘哩、佛蘭西
 ハ二割一分即チ七百六十哩、英國ハ一割餘即チ
 三百七十餘哩、白耳義ノ勢力ハ最モ小ニシテ一
 分弱即チ二十五哩ニ及ブニ過ギズ)、亞弗利加ニ
 於テハ更ニ西かめるんヨリ東さんじばるニ至ル
 迄暗黒大陸ヲ横斷スル一大中央亞弗利加帝國ノ
 建設ヲ計畫シ、其ノ第一着歩トシテ一九一一年
 もろつこ問題ノ勃發ニ際シ、獨逸ハもろつこニ於
 ケル佛國ノ優越的地位ヲ認ムル對價トシテ、佛
 領こんじーノ一部ヲ割讓セシメ、茲ニかめるん
 ヨリ直チニ白耳義こんじーニ達シ得ベキ接續地

點ヲ獲取スルコトヲ得タリ、加之、獨逸ノ世界政
 策ノ實行ニ關スル妄想ハ終ニ支那ニ迄及ビ、一
 八九七年ニハ二名ノ獨逸宣教師ノ暴民ノ爲メニ
 殺戮セラレタルヲ口實トシテ、東部支那ニ於ケ
 ル要港膠州灣ヲ占領シテ此處ニ軍港及商港ヲ設
 ケ、從來歐洲諸國ノ支那沿岸ニ有シタル根據地
 ヨリモ更ニ優秀ナル地點ヲ領有スルニ至レリ、
 膠州灣ノ占領ノ獨逸ニトリテ如何ニ重大視セラ
 レタルカハ、皇帝があるへるむ二世ガ『神ハ宣
 教師ノ虐殺ニ報ヒンガ爲メニ吾人ヲシテ最モ重
 要ナル通商地ヲ征服セシメントス』ト言ヘルニ
 徴スルモ之ヲ知ルコトヲ得ベシ。

要之、ばぐだつど鐵道ニ依リテ小亞細亞地方
 ニ企テラレタル經濟的ノ侵入及支那ニ於ケル膠
 州灣ノ租借ハ、遍ル二十年間ニ獨逸ニ依リテ計
 畫セラレタル海外發展策中ノ最モ重要ナルモノ
 ニシテ、又最モ興味アル重大事件タリシノミナ
 ラズ、現今ノ世界的大亂ノ眞因モ亦其ノ一部ハ
 之ニ歸スルコトヲ得ベシ。

獨逸ノ經濟上ニ於ケル一大變化ト共ニ徐々ニ

發達シタル帝國主義的ノ理想ハ、最初ハ亞弗利加及大洋洲方面ニ實行セラレタルニ過ギザルモ、斷エズ進歩シテ止ムコトナキ國內産業ノ活躍及人口ノ増加ハ、次第ニ東洋方面ニ對シテモ亦同一理想ノ實行ヲ要求シ、然カモ後者ハ前者ヨリモ廣大ナル富源ヲ有シ且其ノ開發ヲ待ツノ狀態ニ在ルヲ以テ、獨逸ノ活動ニハ最モ便ナルモノアリシナリ、此ノ如クシテ西ハ小亞細亞ヨリ東ハ支那及近東方面ニ至ル迄、政治上ニ於テモ經濟上ニ於テモ獨逸國民ハ最モ大膽ニ其ノ關鍵ヲ掌握センコトニ努メ、所謂全獨主義ノ理想ノ實現ヲ夢想シタルコトハ、終ニ端ナクモ今次ノ世界的大亂ノ動機ヲ成スニ至レリ。